２０１６年（平成２８年）８月１４日　日曜日
東奥日報新聞　８面　掲載

第98回
全国高校野球選手権大会
第７日

光星きょう東邦戦

2勝目へ最終調整万全

東邦の投手陣を想定した打撃練習で快音を響かせる益田＝13日午前、兵庫県西宮市・津門野球場

全国高校野球選手権2回戦を翌日に控えた八戸学院光星は13日、兵庫県西宮市の津門野球場で最終調整に臨んだ。対戦相手の強豪・東邦（愛知）投手陣を想定し、割り当てられた練習時間の大半を打ち込みに充てた。

午前11時に始まった練習は、軽めのノックを行った後、すぐに打撃練習へ。主軸の田城や益田、櫻井が、左右の打撃投手相手に鋭い打球を飛ばした。ナインは時折笑顔も浮かべ、普段通りの雰囲気で午後0時半には練習を終えた。

最後に球場外でナインを集めた仲井監督は「良い感じに仕上がっている。後は気持ちだ。心の底から強気で行け」などと説き、活を入れた。

先発が予想される主戦櫻井は「外角一辺倒では勝てない。ぶつけてもいいくらいの感じで、内角を攻めたい」と強気に話した。東邦戦は14日午後1時開始予定。

（松田啓志、本田海輝）

両校選手の１回戦成績

【光　星】

		打	安	点	振	球	打率
④	伊　藤③	4	1	1	1	2	.250
⑤	德　田③	6	1	0	2	0	.167
⑨	田　城③	5	4	2	0	0	.800
③	益　田③	3	1	0	0	1	.333
⑧	花　岡③	4	3	0	1	1	.750
R8	小日出③	0	0	0	0	0	—
⑥	小　林③	5	2	1	0	0	.400
⑦	小　渕②	5	1	1	1	0	.200
①	櫻　井③	4	2	0	0	1	.500
②	奥　村③	3	0	0	0	0	.000

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球	打率
4	0	0	0	13	39	15	5	5	5	.385

投　手	回	打	安	振	球	責	防御率
櫻　井	10	41	11	6	1	4	3.60

【東　邦】

		打	安	点	振	球	打率
⑦	鈴木光③	5	3	1	0	1	.600
⑥	浜　嶋③	5	3	2	0	0	.600
①8	松　山③	5	2	1	0	1	.400
⑨	藤　嶋③	6	4	6	1	0	.667
⑤	小　西③	5	3	1	0	1	.600
③	松　本③	3	1	1	0	0	.333
3	中　西③	2	1	0	0	0	.500
②	高　木③	4	3	1	0	0	.750
H2	上　原③	1	0	0	0	0	.000
④	鈴木理③	5	2	2	1	0	.400
⑧	田　中②	3	2	1	0	1	.667
H	大　月③	1	0	0	0	0	.000
1	千　手③	0	0	0	0	0	—

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球	打率
2	5	3	1	8	45	24	16	2	4	.533

投　手	回	打	安	振	球	責	防御率
松　山	7	31	9	3	1	2	2.57
千　手	2	12	6	0	0	4	18.00

コジローとシュン

支え合い　今、夢舞台

中学からの親友　切磋琢磨

八学光星の中堅手花岡小次郎と控え捕手の真田駿はいずれも東京都出身で、中学時代からの親友同士。けがや打撃不振などを乗り越えて切磋琢磨（せっさたくま）し、最後の夏にベンチ入りを果たした。ともに活躍を誓い、14日、2回戦のグラウンドに立つ。

中学時代、硬式野球のシニアチーム「豊島リトルシニア」で、花岡は投手、真田は捕手。お互いを「コジロー」「シュン」と呼び合うバッテリーは甲子園を夢見て、一緒に八学光星に進学した。

花岡は入学後間もなく、練習中に右肘靱帯（じんたい）を断裂。落ち込む花岡を「焦らないでしっかり直せ」と真っ先に励ましたのは真田だった。親友の言葉を支えに自信があった打撃に磨きをかけ、背番号8を獲得した花岡。「シュンがいなかったら今の自分はいない」と言う。

一方、打撃不振などで悩む真田に対しては花岡が親身のアドバイス。快音を響かす親友の打撃を目標に鍛錬を積んだ真田。厳しい練習にも耐え、背番号12をつかんだ。

1回戦を終え整列したとき、親友同士は絆を確かめ合うように自然と隣に並び、校歌を斉唱。東邦戦に向け、2人は「一緒に活躍し勝利に貢献できたら、もう最高です」と口をそろえた。

（本田海輝）

練習中に笑顔で会話をする花岡（左から2人目）と真田㊨＝12日正午ごろ、兵庫県西宮市・津門野球場

接戦に持ち込みたい光星

きょうの見どころ

【2回戦】
▽第3試合（13時）
東邦（愛知）－八学光星

八学光星投手陣が、強打の東邦をいかに抑え、接戦に持ち込むかがポイントになる。

東邦は初戦24安打19得点で大勝。4番でエースのプロ注目・藤嶋は、1発を含む4安打6打点と気を吐いた。藤嶋の前に余計な走者をためないようにしたい。八学光星の先発は櫻井が有力。展開次第では右腕和田、左腕戸田とつなぐ継投も考えられる。

打線では1番伊藤、3番田城に期待が集まる。県大会で9盗塁した「機動力野球」の象徴である伊藤が、足でかき回せるか。初戦で4安打と復調した田城は、勢いを持続したい。

東邦の先発は、1回戦に続き左腕松山の可能性も。回を重ねるにつれ球が浮く傾向にあり、甘い球を逃さず打ち返したい。初戦で3失策と守りが乱れただけに、付け入る隙は十分ある。

光星　甲子園だより

小日出大里（だいり）　外野手（3年）

初安打狙うお兄ちゃん

「宿舎のスパゲティがうまくて、体重が2㌔増えた」。もともとがっちりとした体格だったが、さらに威圧感を増やし、打倒東邦に燃える。

6人兄姉の長男。1回戦は代走での出場で打席には立てず、妹から「お兄ちゃん、次は打って」と頼まれた。今春のセンバツにも出場したが、無安打に終わっており「しっかりと準備をして、気持ちで負けず思い切りいく」と、2回戦での甲子園初安打を目指す。

（大阪府・新生野中出身、175㌢、80㌔、右投げ右打ち）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです